

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会
牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
http://nkk-kobeshoten.org/ FAX (078) 361-4539
口座振替 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- 礼拝出席に努めよう。
- み言葉を分かち合おう。
- 地域との交流促進。

聖語

いつも喜んでいなさい。
絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。
(1テサロニケ 5:16-18)

逝去者記念月にあたって

～メメント・モリ (死を覚えよ)～

われらにおのが日を数えることを教え、知恵の心を得させてください。(詩90:12)

司祭 ミカエル 小南 晃

先月の巻頭に続いて、9月末に参加した霊操での体験から少しお伝えしたいと思います。

初日、オリエンテーションの後、黙想指導者(同伴者)の清水神父が黙想の家の施設案内をして下さいました。聖堂、小チャペル、図書室や食堂など館内を見回った後、外に出て境内を巡りました。

黙想の家は緑に囲まれた小高い山の中にあり、森の中の散歩道がそのまま十字架の道行きのコースになっていました。第1ステーション(イエスが死刑の宣告を受けたことを覚えて黙想する場所)から順々に坂道を上って行くと、一番上が第14ステーション(イエスが墓に葬られたことを覚える場所)となっています。

そしてそこは森を抜けて三方に視界の広がる見晴らしの良い墓地となっていました。その墓地にはイエズス会の神父や修道士の方々が葬られており、墓石を巡りながら清水神父が「この方はとてもお酒がお好きで、それを覚えている人が時々缶ビールなどお供えしている」などご存知の方々を紹介して下さいました。

その屈託のない語り口に「世に

いる私たちも、世を去った兄弟姉妹も共に主にある交わりの内にある」という思いが自然に滲み出ているように感じられました。

その時、急に清水神父が「小南司祭、あなたはどこに葬られたいですか?」と聞いて来られました。全く意表を突く質問で、私は「鶴越墓苑に一応墓がありますが・・・」などとモゴモゴと答えましたが「自分はどこに葬られたいか」など今まで考えたこともないことでした。

意表を突かれる問いとして

表題に「われらにおのが日を数えることを教え、知恵の心を得させてください」の詩編の1節を掲げました。

「メメント・モリ」というラテン語の言葉があります。「死を覚えよ」という意味ですが、これは暗い脅かしの言葉ではなく、また「人間はどうせ死ぬ身だから生きている内に楽しみ」という刹那的な言葉でもありません。限りある命を神から与えられた大切な賜物として感謝し、一日一日を大切に過ごしなさいという意味です。

そして詩90編12節の言葉はそ

れを教えるものでもあり、11月のキリスト教における逝去者記念の季節にあたってしばしば取りあげてきた言葉や内容です。

しかしながら「メメント・モリ」の言葉も聞きなれてしまうと、その効力を失うのかも知れません。私にとって「あなたはどこに葬られたいか?」という問いは「メメント・モリ」を別の角度から問う言葉でした。そしてまた「メメント・モリ」は、常に私たちをハッとさせる「意表を突く問い」として語られる言葉のように思います。

逝去者記念月にあたって

当教会では毎年11月の第1日曜日に秋季逝去者記念礼拝を行っています。この礼拝は、まずは召された兄弟姉妹の天国での光明と平安を祈ることにあります。またこの時、世にいる私たちも、世を去った兄弟姉妹も、主イエス・キリストにあって交わりは絶えることはないという信仰をさらに堅くし、さらに私たちを見守ってくださっている天の全会衆に感謝して、そうした信仰の先達に倣って、私たちもまた信仰の馳せ場を走る決意を新たにしていこうと、それが教会における逝去者記念礼拝と言えます。

この11月の逝去者記念月にあたり、世を去った兄弟姉妹のために祈ると共に、今一度、私たち自身の生活を「メメント・モリ」の視点から見直し、信仰の先達に倣って信仰生活に一層励む決意を新たにしたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後5時 夕の礼拝

水 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)